

残るものと 消え去るもの



十七世紀以前における
フランス語劇テキストの
制作・上演・伝承

2014. **7. 25** (fri)

第一部 13:00 ~ 第二部 18:00 ~

〈第一部・第二部とも入場無料〉

会場：東北大学川内萩ホール 会議室

お問合せ：黒岩 卓 (tkuroiwa@m.tohoku.ac.jp)

本シンポジウムは、十七世紀までの劇テキスト制作とその上演および伝承に関する研究発表と質疑応答を通じ、文学史・演劇史的知見の時代横断的な情報交換を行うことをその目的とします。さらに本シンポジウムの後半では十七世紀のフランス宮廷における演劇とそこで用いられた音楽について、お話と実演を交えたレクチャー・コンサートを開催します。

第一部 13:00 ~ 16:50

研究発表 (司会進行：黒岩 卓)

13:00 - 第一部開会挨拶

13:10 - 川那部 和恵 (東洋大学法学部教授)
「sottie / farce の衣装考
— 笑いの舞台装置」

14:00 - 黒岩 卓
(東北大学大学院文学研究科准教授)
「アルヌール・グレバン作
『受難の聖史劇』G 写本における
欄外記述について」

14:50 - 休憩

15:00 - 伊藤 玄吾
(同志社大学グローバル地域文化学部准教授)
「16 世紀人文主義演劇と身体性」

15:50 - 秋山 伸子 (青山学院大学文学部教授)
「舞台衣装の詩学
— 17 世紀フランスの場合」

16:40 - 第一部閉会挨拶

第二部 17:45 開場 18:00 開演 20:00 終演

レクチャー・コンサート

— モリエールと十七世紀フランス宮廷の音楽 —

[出演]

秋山 伸子

..... お話

高橋 絵里

..... ソプラノ

佐藤 亜紀子

..... テオルボ

田中 孝子

..... ヴィオラ・ダ・ガンバ

司会進行：黒岩 卓

[曲目]

エチエンヌ・ムリニエ (1599-1676)
《 Enfin la beauté que j'adore 》
ミシェル・ランベール (1610-1696)
《 Vos mépris chaque jours 》
《 Aux plaisir, aux plaisir delices bergères 》
《 Par mes chants 》
ベルラン・ド・バシイ (1621-1690)
《 Je n'ay que trop suivy 》
アントワヌ・ボエセ (1586-1643)
《 Je voudrais bien ô Cloris 》
《 Objet dont les charmes si doux 》
ジャン＝パティスト・リュリ (1632-1687)
モリエール作『町人貴族』より
《 Un cœur dans l'amoureux empire 》
《 Di rigori armata il seno 》
マラン・マレ (1656-1728)
「スペインのフォリア」より抜粋
— その他、テオルボのソロなど

会場案内

東北大学川内萩ホール 会議室 仙台市青葉区川内 40 (東北大学川内キャンパス内)

バス/仙台駅前9番のりばより「宮教大・青葉台行」または「青葉通経由動物公園循環」に乗り「東北大川内キャンパス・萩ホール前」で下車 (乗車時間約15分) 徒歩3分
仙台駅前16番のりばより「広瀬通経由交通公園・川内(宮)行」または「広瀬通経由交通公園循環」に乗り、「川内郵便局前」で下車 (乗車時間約15分) 徒歩7分
タクシー/仙台駅から約10分、仙台空港から約40分

